

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	2792300028		
法人名	社会福祉法人 央福社会		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	大阪市阿倍野区阪南町2丁目16番7号		
自己評価作成日	平成31年3月25日	評価結果市町村受理日	令和元年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成31年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に位置し、近隣には商店街やスーパーがたくさん点在している為、希望に沿いながら外出を行っています。また、近隣の小学校との交流やボランティアの受け入れも可能な限り行っています。地域活動に参加したり、地域の方をホームの行事にお招きするなど地域との関わりを大切に、協働体制づくりに努めています。ホーム内の取り組みでは出来る限り自宅の雰囲気と近い環境で普通の暮らしができるよう取り組み、行き過ぎた介護、上げ膳据え膳にならないよう入居者一人ひとりの能力に応じて生活ができるようチームケアをおこなっています。排泄ケアや水分管理など継続的に見直しし、入居者の体調管理面でのケアや、認知症のBPSDの緩和に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用型の通所介護を併設した開設10年目のグループホームで、駅から近い閑静な住宅街に位置している。ホーム理念の下、笑顔で毎日過ごせるように、自分の親と思って接し支援するが、行き過ぎた介護にならないように、節度を重んじて支援を行っている。「日常生活動作が難しくなっている利用者には、その人に合わせた個別ケアを行って喜んでいただいています」と、管理者は笑顔で話す。近隣の公園や神社・商店街に出掛け、地域の行事も積極的に参加している。職員の聞き取りでは「職員間の連携は良く、仲も良いです」と、明るく働きやすく職場であることが伺え、離職も少なく良い職場環境と思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしい気配り、親思う慈しみの心」の法人基本理念を元にスタッフ全員でグループホーム理念を作り、玄関や事務所等に掲示している。また、会議などで定期的に確認し、実践に繋げている。	理念「温か気持ちで入居者に寄り添い、安心して笑顔で過ごせるように、地域とのふれあいを大切にし、入居者が住み慣れた街で普通に暮らし続けられるように支援する」を、ホームの玄関と、スタッフの事務所に掲示し、月1回の定例会議で確認している。日頃のケアの時も互いに確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に町会長に参加してもらい、地域活動の情報をいただくと共に、入居者が地域活動に参加しやすい環境作りに協力いただいている。また、町会長会議への出席や、地活協への参加により相互関係を構築している。	自治会に入会していて、町会長から情報提供があり、防災訓練や餅つき等地域の活動に参加している。近隣の小学校や商店街など出掛けて、一角にあるサロンでのコーヒータイトに時々参加する。管理者は地域活動協議会での認知症講座に年1～2回参加し、講師も担当者することがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会長、地域コーディネーター、地域包括と協働し、地域に向けての認知症講座を開催したり、相談窓口としての役割を発信している。また、個別の相談にも随時対応している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告の他、事故やひやりはっとの報告、地域とのかかわりに関する報告などを行い、その中で得た情報や助言をスタッフ内で共有し活かせるように取り組んでいる。	偶数月の午後に会議を行っているが、次回開催曜日は参加者と相談して決めている。地域包括支援センター・社会福祉協議会・町会長・地域福祉コーディネーター・家族代表・利用者代表等の参加がある。活動内容・事故ヒヤリハット、身体拘束の有無等を報告している。直近では花見外出・誕生会・消防訓練・外部評価予定が主な報告で、参加者相互に意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援担当との連携や、区役所で行われるタウンミーティングや意見交換会に参加するように取り組んでいる。また、運営推進会議には社会福祉協議会の担当に参加してもらい、情報交換などを行っている。	生活支援担当のケースワーカーの定期訪問がある。年1回タウンミーティングに参加し、災害や民生委員に関すること等を話し合っている。社会福祉協議会・包括センターと連携もあり、区の保健福祉課には書類等を提出し、大阪市福祉局には電話で相談することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議時に身体拘束廃止委員会を開催するとともに、指針を定め重要事項等にも方針を記載している。外部研修、内部研修にてスタッフへの啓発、周知も定期的に行っている。	2ヶ月毎の運営推進会議と連動して身体拘束廃止委員会を実施している。身体拘束の事例は無く、外部・内部研修も時間外で積極的に行われている。フロア会議で話し合っ、日常業務ではスピーチロックに留意し、利用者への物事の伝え方にも配慮している。玄関はチャイム対応で鍵をかけていないが、危険防止のため内扉は手動で開けられるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修により学びの機会を持つと共に会議等で定期的に啓発、周知し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で成年後見制度を利用されている方がおり、後見人や保佐人の定期訪問時に交流できる環境はある。また、権利擁護について外部研修を受けることによる伝達研修を今後行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明を行い、十分に理解・納得していただいた上で必要に応じて署名・捺印いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するほか、運営推進会議に家族や入居者に参加いただき意見をいただいている。また、面会時など個別に質問や意見、要望がないか聞き取りをしている。	行事参加や面会時に声掛けして、家族の要望を聞き取る努力をしている。家族からは運営に関する意見は殆どなく、利用者の個別ケアの意見・要望には都度対応して解決している。年4回の「まごころ通信」の一部に、担当スタッフが利用者の日頃の生活状況を、写真と共に知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一度、人事考課表にて自己評価し、それらを元に個別に話をしたり会議の場で意見交換をすることで業務・運営に反映させるように努めている。また、管理職会議にて他管理職との意見交換なども行っている。	毎日の申し送り時に気づきを話し合い、月1回のホーム会議の場で意見交換ができています。法人の人事考課表を年2回実施し個別の意見を聴く機会がある。職員からは業務改善や利用者のケアの方法・感染症時期の清掃方法などの意見がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの実績、勤務状況を見ながら、年一回の昇給、年二回の賞与を行っている。また、資格取得に向けての勉強会や、会議の場で意見交換し、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには定期的な面談やOJTによる指導を行う。また、法人内勉強会や外部研修に参加しやすい環境を作り、得た情報は伝達研修にてスタッフに周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やグループホーム委員会、阿倍野区社会福祉施設連絡会など、参加・活動することにより他施設担当者との交流やネットワーク作りが図られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づき、不安や困り事、要望などを随時聞き取りしながら関係づくりに努めている。入居後も情報収集シートも活用し、本人や家族から情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や契約時の家族への聞き取りに基づき、不安や困り事、要望等を相談しやすい環境、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどんな支援を必要としているのか、聞き取りなどにより把握し、必要に応じてサービスの変更が必要であれば相談の上、変更できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまで共同生活の場である認識を持ち、家事や活動を一緒に出来る環境や雰囲気を作り、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関の受診や、外出などの行事へ参加いただいたり、運営推進会議への参加を依頼したり、年に一回家族会を開催するなど、施設側と家族の連携強化、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族への聞き取りをし、馴染みの場所や関係の把握に努め、友人に面会に来ていただいたり、家族に協力してもらい外出や外泊も含め、関係が途切れないようにしている。	友人の面会は年々減少しているが、家族には日頃からの面会をお願いしている。利用者の誕生日に合わせて、同伴が可能な家族に外出・外食をしていただき、その支度の支援等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流時には随時必要に応じて職員が介入するなど、交流しやすい環境作りに努め、交流が難しい方へは職員が随所に関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の支援について、次の受け入れ先を探す支援や必要に応じて本人や家族と連携をとり、相談などがあれば受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントに基づき、可能な限り希望や意向に沿った暮らし作りを目指している。また、日々知り得た情報は情報収集シートやケース記録に記録し、関わり方のヒントにしている。	情報収集シートを参考に、本人の意見を尊重して暮らしていただく心掛けを、家族からも提案していただいている。日頃のケア時の表情・行動や関わりの中で、利用者の希望・意向を推測して、本人本位のケアの実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等について本人、家族、関係者から情報を収集し、把握に努めている。また、必要に応じて利用していたサービスの担当者と連携をとり情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察に加え、入居者個別担当やケアマネジャーが中心となり、カンファレンスを開催し情報の共有を図っている。また、その記録も周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個別担当やケアマネジャーが中心となり定期的にカンファレンスを開催し、本人の思いや家族の思い、意向の確認・把握し介護計画の作成・評価を行っている。	長期ケア計画は1年、短期は6ヶ月として、状況変化時には随時モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。サービス担当者会議は、入居者担当職員とケアマネジャーが中心となって関係者と話し合い、家族の参加が得られない場合は、電話で意向を確認して計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきなどケア記録に記入し、職員間で共有しながら申し送り時やカンファレンスで記録を元に検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り個別のニーズに対応できるように職員の配置や連携を図っている。また、都度相談、検討し、できるだけ思いに応えられる体制作りを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の種類を見極め、本人が無理なく参加しやすい、有する能力を活かせる活動への参加を検討。また、地域側からも協力していただけるように、協力体制作りを努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の面接時に意向確認し、馴染みのかかりつけ医が居れば継続・連携をとり、必要に応じて家族にも協力をいただきながら定期的受診や随時の受診など、適切な医療を受けられるように支援している。	入居してから2/3の利用者は従来のかかりつけ医の往診を受けている。他はホームの協力医の月2回の往診を受けている。歯科往診は殆ど全員が希望し、週1回往診を受け、口腔ケア・治療を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と随時連絡・連携をとり、情報交換をしながら個別に合わせた適切な受診や看護を受ける事ができる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力体制病院の相談員とは普段から情報交換など連携を図っているが、その他の医療機関に関しては、都度担当の相談員に対し情報交換や情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期の指針を説明し、本人・家族に同意を得て、有事の意向を伺うようにしている。また、医師や訪問看護師と連携を図り、情報交換をすることで重度化に対する方向性を検討している。	入居時に重度化や終末期について説明している。入居時には看取りについては説明していないが、状態の変化時には医師から対応を説明して納得の上、同意書を交わしている。看取り指針を作成し、看取りケア研修会に参加して内部研修も行っている。	最近では、グループホームで看取ってほしいとの利用者・家族の意向・要望も増えていることを考慮し、また事業所の対応力が変化することも考慮して、看取りケアの体制を充実することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関しては、マニュアルの把握や施設内勉強会への参加や訪問看護師の指導などを参考に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会長を始め、有事には連合に対して相互協力を要請している。また、消防訓練や避難訓練にも町会長に参加依頼し、協力箇所の確認など連携を図っている。	年2回消防署の立ち会いの下、昼と夜想定して消防訓練・避難訓練を行い、町会長の参加協力もある。年1回の小学校での防災訓練にスタッフと利用者が参加している。近隣は高齢者家庭が多く、協力が難しいので、有事の場合は町会・連合会で連携することとしている。備蓄防災担当が防災設備や備蓄本等を定時チェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、居室での時間などプライバシーに配慮し、人格を尊重した言葉かけや対応を心がけている。また、会議や勉強会などで都度啓発や確認をしている。	研修や定例会議等で、利用者の気持ちを大切にすることがその人の人格を尊重するケアに繋がるとして、希望や思いを汲み取るよう話し合っている。またプライバシー確保に配慮し、不適切な態度や声掛けには、気がついた時点でリーダーや管理者が注意し、改善に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい言葉かけに配慮し、自己決定の難しい方に関しては、家族や過去の意向に基づいて決定を促し、日々の生活の中で情報収集に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやペースに合わせて1日の流れや活動内容を入居者と一緒に決めている。外出に関しても極力希望に沿えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回、美容の日を設け、カットやカラー、パーマなど本人の意向に沿ったヘアスタイルの援助や、衣類なども本人や家族に趣味や嗜好を聞き取りしながら配慮に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできることを把握し、調理や片づけができる方に関しては極力一緒に行うようにしている。時には行事食や食事レクリエーションなどで楽しみをもってもらおうよう配慮している。	管理栄養士の立てた献立の下に、食材業者からほぼ毎日配達してもらい、調理や盛りつけ・片づけ等利用者と一緒に行っている。職員は検食を兼ねて、利用者と一緒に食事している。行事食やイベント時には食材を止めて焼きそばパーティ等を行い、おやつは手作りしたりと変化を付けて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事など、食事量・食事形態・トロミ剤の使用など、個々人の状態・嗜好などを把握し、食事量や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科により、治療・口腔ケアに加え、毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を職員と協働で行っている。必要に応じて義歯の預かりも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤の使用を極力抑え、自力排泄ができるよう、取り組みを継続している。排泄のリズム把握に努め、安易なおムツ使用をせずトイレにて排泄を促している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握してトイレに誘導することにより、殆どの利用者は日中はほぼリハパンのみで過ごしている。夜間にはリハパンにパッドをプラスしながら、出来る限りトイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師と連携をとり、水分強化や便通に良い食材の活用、体操や身体を動かす機会を作るなど、便秘の改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった入浴日や時間はなく、極力希望に沿った形で入浴していただけるように心がけている。湯温や浴室内の室温の調整、入浴剤の使用など個々の嗜好と楽しみをもてる入浴になるよう努めている。	週2回の入浴は特に時間を決めないで、個々の希望に沿って入浴してもらっている入浴拒否の人には日を替え、タイミングを替え、人を代えたりしながら入浴してもらい、時には清拭や足浴等に対応している。入浴剤やゆず湯で楽しむ等の工夫もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースにより、日中の活動時間や休息時間を調整している。室温、湿度調整により安心して眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表をいつでも確認できるようにし、個々人の服薬内容の把握に努めている。また、医師・訪問看護師と情報交換、連携を行い薬剤による症状の変化、副作用などにも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に基づいて個々の趣味や、やりがい・楽しみを把握し、好きなことができる環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、希望を聞きながら可能な限り職員とともに外出できる機会を設けている。誕生日祝いとして家族とともにでかける機会を作る支援も行っている。	日常的には近くの公園や商店街・スーパー等に職員と共に掛けている。遠出には車を使って2人ぐらいつつ、大きな公園や百貨店での買い物に出かけ、季節の花見や誕生日には、家族の協力を得て外食に出掛けたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族よりお小遣いを預かりホームで管理しているが、希望時にはいつでも使えるようにしている。希望者には家族と相談の上、自身で小額の金銭管理をしていただいたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるようにしている。また、手紙などは本人に渡し、返事を書きたい場合は必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の中核症状、BPSDに対する理解を深め、温度・湿度設定に配慮したり、強すぎない色彩や照明の明るさにも配慮している。また、時として季節の飾りつけをするなど快適に過ごせるように配慮している。	一日の大半を過ごすリビングや食堂は、光や音に過敏な利用者への配慮から、環境を整備して快適に過ごせるようにしている。季節により、職員とともに手作りした飾り雑や壁飾りを飾りつけ、また一人になれる空間としてソファが置かれている。エレベーターには、昔を思い出してもらおう回想法を利用した、昔の映画のポスターが飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった場所だけでなく、居室や和室、共用スペース以外にも過ごせる環境作りに配慮し、親しみやすい座席配置等も工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースとの相談にはなるが、出来る限り馴染みのある家具や小物等の私物を持参いただき、元々暮らしていた環境に似た居室作りに努めている。	なるべく私物を持参してくださいと声掛けし、馴染みの家具や小物、大きな仏壇等、思い思いに使い馴染れた好みの物を持ち込んで、居心地良く過ごせる工夫がみられる。ベッド・クローゼット・エアコンの他、テレビが備え付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の思い、家族の思いを尊重・理解し、可能な限り自己にて意思決定や安全に行動ができるように努めている。		